

## 日本医学会分科会活動報告

一般社団法人日本消化器外科学会  
理事長 北川雄光

### [分科会としての活動]

#### I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

本学会は日本外科学会など関連学会とともに National Clinical Database(NCD)を構築し、消化器外科手術の質と安全性の向上、医療レベルの標準化、均霑化に大きく貢献しています。

専門医制度についても、基本領域である日本外科学会新専門医制度が発足し、2021年には新制度における最初の外科専門医が誕生しましたが、サブスペシアルティ領域の今後については以前不透明な状況が続いています。

本学会は、消化器外科医を目指す外科専門医が、適切な修練を経て消化器外科専門医を確実に取得できるよう新しい制度を2020年から発足し、その一環として公式テキスト「消化器外科医の心得」を発刊しました。

学ぶべき事項が明確化され、質の高い専門医を育成して社会に貢献しております。

学術的活動においてはNCDを利活用し、様々な他の関連学会とともに消化器外科関連臨床研究を推進し、質の高いエビデンスを世界に向けて発信しております。

国際的な活動については、会員2万人以上を擁する本学会は消化器外科を対象とした世界最大の学術団体であり、欧米アジアの主要な学術団体との連携を行っています。

今後は特に若い世代の交流活動を促進して参ります。特にアジアの中核としての役割を果たして参ります

本学会の社会的意義については、急性腹症や腹部外傷をはじめとする救急疾患から、消化器癌の集学的治療、良性消化器疾患の機能温存・低侵襲治療まで医療現場の最前線において、最も広い疾患分野を支える消化器外科医を育成する重要な使命を担っていることが最も重要であると考えております。

本学会は、外科学・消化器外科学の学問的発展はもとより、若手外科医が誇りとやり甲斐を感じて生涯研鑽を積むことができるシステムを構築し、社会に向けて発信する使命を有しています。

日本消化器外科学会の会員数は近年徐々に減少し、60歳代会員割合の増加、中心的担い手である40歳代会員割合の減少が認められます。

我が国における急性期医療の重要な担い手である消化器外科領域を目指す若手医師の減少は、国民の福祉、医療の質に関わる重要課題です。

近年医学部学生における女性の占める割合は増加し、本学会においても女性会員の比率は徐々に高くなってきています。

本学会が、外科基本領域最大のサブスペシアルティー学会として社会に貢献していくための最大の課題は、「若手及び女性医師の支援」です。

新たに40歳以下の若手医師によるU-40を全国規模で組織し若手消化器外科医が主体的に技術向上、学術研究、人的交流を促進できる仕組みを構築しました。

本学会の特徴の一つである評議員申請のための会員歴基準を見直し、実績を積みば若手・中堅が申請できるよう制度改革に着手しました。

また、男女共同参加WGを設立し、女性評議員・理事増加のための制度改革を行っております。

## II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。

日本外科学会、外科系関連諸学会とともに創設したNational Clinical Databaseを活用し、消化器外科専門医が高度な技術を安全に提供することでもたらされる医療経済上の効果を明らかにし、次世代を担う消化器外科医に正当なインセンティブを付与することも必要であると考えます。

次世代外科医が誇りとやり甲斐を感じて生涯研鑽を積むことができるシステムの構築を他の外科系分科会とともに推進して参ります。

### **【貴学会からの期待・要望】**

日本医学会におかれましては、学際的なグローバルな課題について様々な学会の見解を取りまとめて、進むべき方向を示していただきたいと考えております。日本学術会議とも緊密な連携を構築し、社会的な提言を活発に行っていただきたいと考えます。

一方、日本における無秩序な学術団体の乱立は、医療現場に大きな負担となっています。

日本医学会のリーダーシップで、類似の学術団体の統廃合を促進するような施策を講じていただければ幸いです。